

今井邦彦(30 期卒)

平成 30 年 9 月 9 日(日)に快晴の中、日本薬学会 長井記念館(東京都渋谷区)にて開催されました。

今回の同窓会卒後研修会は、奥羽大学歯学部同窓会発足40周年記念講演会ファイナルに相応しい 母校出身の著名なお二方が講演されました。

午前は、オーラル・デジタルスキャナーをいち早く取り入れ最先端治療をされている、千葉 豊和 先生(12 期卒)による『デジタルデンティストリーの可能性』、午後はデジタルスキャナーを用いたMI審美修復治療を世界中で講演されている、大河 雅之 先生(10 期卒)による『審美歯科修復治療の最前線』(MI 修復治療とデジタルデンティストリー)という演題でした。

千葉先生は、Intra oral scanner の現状と未来を実際に臨床の場で使用されているお立場からの見解と今後の発展性についてお話されていました。補綴修復における Intra oral scanner とプレパレーションは相関関係にあり、フィニッシングラインは縁上で MI プレパレーションが必要であることや唾液、血液はもとより、診療室内の照明条件もスキャニングに関与することを知りました。利便性を追求して行くのは人常であり今後はスキャニングした CLOUD DATA を基に DT が作業し、クリニックにデリバリーされる仕組みは より進んでいくであろうと仰っていました。またその領域までもすでに踏み込んでいらっしゃることに驚きを隠せませんでした。

大河先生は、天然歯に極限まで近づけるMI審美修復治療においてラミネートベニアを用いた咬合の見方、マイクروسコープ下での診療と言った日々の臨床に直結するお話から、1 歯に対して頬舌側で両面にラミネートベニアを用いるサンドイッチベニア水平的顎位の左右差に対して大臼歯部をバイトアップすることで顎位の改善を図り症例によりマテリアルセレクションを駆使しているアドバンスなお話まで包括的にされていました。臨床におけるモックアップ、プロビジョナルの作製方法やセメントの選択術前、術後の口腔内、顔貌写真の撮影の様相も含め、余すことなく学ぶことができました。

両演者ともに、デジタルへの移行は不可避であり現時点では従来法とデジタルのパラダイムシフトに向けて両者の良い部分を駆使して臨床で活用されていることがわかりました。

大河先生、千葉先生が母校の学術により深く携わっていただくことにより、トラディショナルに対する敬意を払いながら、未来のドクターに向けて最先端の歯科を情熱的に伝えてくださっていると実感いたしました。

最後に、世界的にも有名なスタディグループのSJCDの大河雅之先生、千葉豊和先生が母校の同窓にいらっしゃることは誇りであり、今回のような有意義な講演会の機会をつくっていただいた奥羽大学同窓会学術部の先生方に感謝を申し上げます。